（令和３年（2021 年）８月 19 日）

令和３年度（2021 年度）第２回エゾシカ対策有識者会議
議事録（概要版）

日　　時　　令和３年（2021 年）７月 21 日（水）９時 50 分～12 時 30 分
開催形式　　Web 会議
出 席 者　　別添「出席者名簿」のとおり
議　　題　　（３）生息状況評価部会報告（令和２年度（2020 年度）エゾシカ個体数指数等について）
（４）エゾシカ捕獲推進プランについて
（５）北海道エゾシカ管理計画（第６期）（素案）について
（６）その他

議　　事

（３）生息状況評価部会報告（令和２年度（2020 年度）エゾシカ個体数指数等について）

ア　生息状況評価部会長（松田構成員）から資料３に基づき、令和３年（2021 年）６月 11 日に開催された生息状況評価部会における令和２年度（2020 年度）エゾシカ個体数指数等の検討結果について報告。

イ　山村構成員から追加資料に基づき、現行の個体数指数の推定手法に関して、新しいデータが加わると推定値が過去に遡って修正される課題への対応策に係る検討状況について説明。

ウ　質疑応答等（ 有 ・ 無 ）

（宇野構成員）東部地域の文章中において、再び増加に転じた可能性が指摘される年次が図と整合しないので、文章の表現を修正すべき。

（上野主査）山村構成員の追加資料については、今後、生息状況評価部会の構成員で理解を深めて、新たな個体数指数の推定手法として提案するのがよいと考える。

（松田構成員）５年間の中で過去に遡及した上方修正を減らすという意味では、山村構成員が検討されている新手法は、よく検討されたものだと感じた。

（近藤座長）資料３については、冒頭に宇野構成員から御指摘のあった点を微修正して、公表資料とする。

（４）エゾシカ捕獲推進プランについて

ア　事務局（仲澤エゾシカ対策係長）から資料４に基づき、令和３年度（2021 年度）エゾシカ捕獲推進プラン等について説明。

（特記事項）

・北海道エゾシカ管理計画（第５期）が今年度で終了し、来年度から第６期が開始となることを踏まえ、資料を「令和３年度（2021 年度）エゾシカ捕獲推進プラン及び令和４年度（2022 年度）以降の捕獲推進について」として提示。

・令和３年度（2021 年度）の捕獲等目標数合計値を令和４年度（2022 年度）以降、令和５年度（2023 年度）まで堅持し、捕獲推進を図る計画。

イ　質疑応答等（ 有 ・ 無 ）

（松田構成員）資料内にある個体数指数の推移に関するシミュレーションは、点推定値 50％の中央値で示されたものだが、95％信頼区間の上限値、下限値で示すことも可能。当然、下限値で示した場合には現在のシミュレーション結果よりも早く大発生水準を下回ることになるし、上限値で示した場合にはこの捕獲目標数では計画期間中に大発生水準を下回らない。そういう意味ではやはり、計画期間途中での見直しが必要で、見直しの方法も含めて検討する必要があると考える。

（上野主査）これからもっと重要視すべきなのは、各地域でどのように捕獲目標を達成していくのかという実行の部分。どのように市町村に配分し、配分できない部分をどのようにカバーしていくのか。現状の実績よりも全体的に２万頭程度高い捕獲目標となっていることを踏まえると、簡単に達成できるものとは思えない。目標達成するには、市町村への働きかけが重要になるものと考える。

（梶構成員）各地域でどのように捕獲目標を達成していくのかという実行の部分は重要。北海道の市町村の大きさは、本州でいうところの県レベルのスケールになるが、その市町村を支える仕組みが非常に弱い。市町村ごとに捕獲目標を達成するだけの実力があるのか否か、そのようなものを見える化していかないと、目標達成は困難である。市町村によって課題は異なるので、振興局職員がサポートするなど、市町村に対する普及啓発を図るべき。

（稲富主査）市町村に捕獲目標を配分しても足りない場合には、道自らが捕獲していくということが非常に重要。現状は、１振興局に１箇所という割振りで指定管理鳥獣捕獲等事業を行っている印象だが、今後は捕獲が不足している地域に予算を投入するなど、より戦略的な捕獲計画が必要になるのではないか。

（上野主査）目標達成できない理由というのは、自治体ごとに異なると思うので、例えば、第６期計画での設定を予定しているモデル地域の振興局担当者を通じて情報収集を行い、本会議の場で報告してもらうなどしてはいかがか。

（宇野構成員）特に西部地域のメスジカ捕獲比率向上に向けて、比率の低い市町村に直接指導して促すなど、他の市町村と比較できるようにすべき。

（松田構成員）この捕獲数では足りないということを理解してもらうために、現在の捕獲実績や各市町村の捕獲目標数で捕獲数が推移した場合に、個体数指数がどのように推移するのかを示してもよい。

（石名坂構成員）プランの目標数どおりに捕獲された場合、相当数の捕獲個体廃棄が生じることになる。廃棄がトラブルの元となり、ハンターの捕獲意欲や市町村の捕獲推進の意欲を削いでいるという現状もあることから、各自治体任せではなく、是非、道が主体的にシカ廃棄の広域処理などについて御検討いただきたい。

（５）北海道エゾシカ管理計画（第６期）（素案）について

ア　事務局（仲澤エゾシカ対策係長）から資料５及び６に基づき、北海道エゾシカ管理計画（第６期）（素案）について説明。

イ　質疑応答等（ 有 ・ 無 ）

（上野主査）新しい地域区分、北部・中部地域の地域別目標に関しては、捕獲推進プランで示されたシミュレーション結果との整合を図り、文言修正をすべき。

（稲富主査）交通事故の発生状況については、現在、令和元年（2019 年）の情報が記載されているが、最新である令和２年（2020 年）の情報に更新すべき。

（松浦構成員）食肉としての有効活用に関する「安全・安心の確保」に向けては、施設認証だけでなく、実際に食肉処理施設で解体を行う人材の育成を図ることが重要。

（宇野構成員）知床半島エゾシカ管理計画の推進については、環境省だけでなく、隣接地区の管理を中心に行っている「北海道森林管理局」の名称を追記すべき。

（６）その他

ア　事務局（坂村課長補佐）から今後のスケジュール（予定）について説明。

（特記事項）

・７月 27 日（火）　北海道環境審議会に対する諮問

・10月以降　北海道環境審議会における審議、答申
　パブリックコメント、関係団体に対する意見聴取

イ　質疑応答等（ 有 ・ 無 ）

（梶構成員）世界の先進国の中で、土地管理者や所有者が自らシカ管理をしないという国はない。北海道森林管理局や環境省に、所管地域のシカ管理を主体的に行っていくという意識を持ってもらえるよう、北海道が徐々に巻き込んでいくべき。

（事務局（坂村課長補佐））今後の本会議において、北海道森林管理局と環境省にも出席いただき、取組について情報共有を図るなど、対応を検討したい。

（梶構成員）加えて、自衛隊の基地に関してだが、欧米では軍事基地の野生動物管理という分野があり、野生動物管理専門家を雇用して、州の計画に準じて自ら捕獲を行っている。日本においても、自衛隊が自ら土地を管理しているのだから、自らシカ管理をしなければならないという意識付けを図っていく必要がある。

（事務局（坂村課長補佐））防衛省関係者と連絡を取り、話を伺った上で、本会議で御報告することとしたい。

○　閉会

以　上

令和３年度（2021 年度）第２回エゾシカ対策有識者会議
出席者名簿

日時：令和３年７月 21 日（水）９:50～
※Web 開催

1　構成員

北海道大学 総合博物館	研　究　員	近藤　誠司
酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類	准　教　授	伊吾田宏正
（公財）知床財団	保護管理部長	石名坂　豪
東京農工大学大学院 農学研究院	特 任 教 授	宇野　裕之
兵庫県森林動物研究センター	所　長	梶　光一
（一社）エゾシカ協会	理　事	松浦友紀子
横浜国立大学大学院 環境情報研究院	教　授	松田　裕之
農研機構 農業環境研究部門	専　門　員	山村　光司

2　関係機関

道総研エネルギー・環境・地質研究所	主　査	上野真由美
	主　査	稲富　佳洋
	研 究 主 任	亀井　利活

3　関係所属

保健福祉部健康安全局食品衛生課	主査（計画推進）	井上　有美
農政部生産振興局技術普及課	農業環境係長	水山　亨
水産林務部林務局森林整備課	主　任	伊藤　裕子
水産林務部森林環境局道有林課	道有林整備係長	梅津　和範
	主　査	新谷　大典
環境生活部環境局循環型社会推進課	一般廃棄物係長	不破　秀樹

4　事務局

環境生活部環境局自然環境課	エゾシカ担当課長	藤嶋　泰道
	課長補佐（エゾシカ対策）	坂村　武
	主幹（エゾシカ活用）	永仮　敦善
	エゾシカ対策係長	仲澤　健
	主査（エゾシカ）	渡辺はつき
	主査（エゾシカ活用）	松田　宏子
	主　任	島本可奈子
	主　事	加藤　葵